

第184回国際研修

「人身取引の現状と対策、とりわけ性的搾取を目的とする人身取引の現状と対策」

1 日程及び参加者

- 令和6年5月9日（木）から同月29日（水）まで
- 海外参加者19名（18か国から参加）
- 国内参加者5名

2 目的

本研修は、研修参加者に日本や世界の現状や取組について学び、効果的な対策を探求してもらうことを目的としていました。さらに、研修参加者の相互理解を促進し、研修参加者間のネットワークを構築することも目的としていました。

3 研修の内容

(1) 講義

次の専門家による講義を行い、講義の後に質疑応答の機会を設けました。

【海外の専門家による講義】

1. 「人身取引の現状と対策、とりわけ性的搾取を目的とする人身取引の現状と対策」
シルク・アルバート 氏
国連薬物・犯罪事務所（UNODC）条約局組織犯罪・違法密輸部人身取引・移民密輸班 犯罪防止専門家
2. 「米国における人身取引対策」
キンベリー・ソコリッチ 氏
米国司法省刑事局海外検察官育成・支援・訓練室（OPDAT）リーガルアドバイザー（検察官）
3. 「カナダにおける人身取引」（共同講義）
シンシア・レベザ 氏（カナダ公安省重大・組織犯罪政策部長）
ロリアン・スミス 氏（同省人身取引対策チーム上級政策アドバイザー）
エレン・ウィルツ・ブラウン 氏（カナダ司法省コンサルタント）

【日本人の専門家による講義】

1. 「日本における人身取引対策について」
警察庁生活安全局保安課 大木 邦彰 警視
2. 「警視庁における人身取引事犯」
警視庁生活安全全部保安課保安第二係 武田 修一 警部
3. 「出入国在留管理庁における人身取引対策」
出入国在留管理庁出入国管理部審判課 星 智也 補佐官
4. 「人身取引被害者支援における IOM の役割」
IOM（国際移住機関）駐日事務所 望月 大平 氏

(2) 個人発表

各研修参加者が、人身取引に関する自国の現状や課題を発表しました。各発表に対して、他の研修参加者から多くの質問が出され、活発な質疑応答がなされました。

(3) 施設見学

羽田空港（東京出入局在留管理局羽田空港支局）を訪問し、空港における入国管理の徹底を通じた人身取引対策について説明を受けるとともに、具体的な取組や設備を見学しました。

(4) グループ討議・発表

研修参加者を3つのグループに分け、個人発表、講義及び施設見学を通じて得た知識を踏まえ、効果的な人身取引対策について討議を行いました。具体的には、摘発の困難さ、被害者の特徴を踏まえた事情聴取や保護措置の必要性、予防・啓発活動の重要性等に焦点が当てられ、それらを踏まえた様々な対策について議論がなされました。そして、討議の結果を、全研修参加者や当研修所職員の前で発表し、質疑応答を行いました。

4 研修参加者からのフィードバック等

研修参加者からは、研修は良く構成され、多くを学ぶことができたなど肯定的な意見が多く出されました。他方、事例研究やロールプレイもあるとより良かったなどの意見もありました。こうした研修参加者の意見も踏まえ、より良い研修の実現に努めます。

5 担当教官の所感

人身取引は世界各地で起き、被害者は身体的、性的、精神的、経済的又は社会的に大きな被害を受ける深刻な犯罪です。特に、性的搾取を目的とする人身取引は、女性や子どもなど立場の弱い人々が被害者の大半を占め、被害者保護及び二次被害防止の観点から様々な配慮や取組が必要です。研修参加者の間でも、専門家による講義を通じて、被害者が抱えるトラウマを踏まえた対処策の重要性に関する認識が強まりました。具体的には、二次被害を防止するなど被害者の心情に配慮した事情聴取が必要であり、被害者の供述は一貫性がなく不合理に聞こえるかもしれないが、被害者が置かれた状況やトラウマ等を踏まえると、それらは必ずしも供述の信用性を減殺するものではないという理解が深まりました。さらに、被害者の供述を補強する証拠の収集も重要であるという認識も深まりました。また、本研修を通じて、いずれの国においても人身取引が重要な課題であり、貧困や移民など社会経済的な要素が遠因になっていることが改めて認識されました。その上で、各国が摘発、捜査、被害者保護などに関して様々な取組を実施していることが明らかになりました。研修参加者が非常に熱心に研修に取り組み、世界や他国の現状、制度又は運用等を学び、より良い制度や取組について意見を交換しました。例えば、研修参加者は、摘発や捜査の難しさ、被害の大きさ等を考慮すると、人身取引の発生を未然に防ぐ取組が重要であると改めて認識していました。担当教官自身も研修参加者から多くを学びました。各研修参加者が、本研修で得られた知識を自国の制度や運用の発展・充実に活用してくれれば幸甚です。

以 上